



# 平成最後の入学式 ようこそ16期生!



校庭の桜が満開の4月8日、第16期生入学式が挙行されました。中学棟前に設置された2年生が作ったビッグアートと、3年生が賑やかに飾り付けした教室が新入生を迎えました。入学式では、今年着任された鈴木晴久校長先生から「この向陽で分かる楽しさ、できる喜びを存分に味わおう」と式辞があり、その後、新入生代表の揚塩日葵さんが「平成から令和への新しい時代の架け橋となれるよう向上心を忘れず挑戦することを誓います」と、堂々と宣誓しました。また、9日には、体育館に1

000人を超える全校生徒が顔を合わせ対面式が行われ、中高新入生代表が挨拶を交わしました。80人が、共に学び合い高め合いながら、個性や能力を最大限に伸ばし、生き生きと成長していくことを願っています。

## これが向陽! 新入生歓迎会

22日、県民文化会館大ホールで、恒例の中高新入生歓迎会が盛大に開催され、演劇・バトン・邦楽・合唱・吹奏楽の各部が日々の練習の成果を披露しました。舞台では各クラブの中学生や卒業生（環境科学科生）も多数活躍します。高校でも中心となって頑張っている卒業生を見られるのも楽しみの一つ。1年生は、各部のレベルの高さに驚いている様子で、最後までノリノリで楽しんでいました。「向陽に来たんだ」という実感が、また強くなったことでしょう。



## 自然に触れる・体験から学ぶ 2年生孟子フィールドワーク



23日、新緑に包まれ、うぐいすの鳴き声があちこちから聞こえる里山（孟子ピオトープ）で、2年生は丸一日、たっぷりと自然を満喫しました。講師先生として環境学習アドバイザーや県立自然博物館の学芸員の方々をお迎えし、生態系や動植物について体験から学ぶ機会です。何よりも大切なのは生き物に触れる体験。皆、池の中にどんどん入っていき、カエルやザリガニ、そして今年はサンショウウオの赤ちゃんを捕えた生徒も。サプライズは、前日までシジュウカラのひなが育っ

ていた巣箱に、何と大きなアオダイショウ（ヘビ）が入っており、ひなはすべて飲まれてしまいました。講師先生がヘビを引っ張り出すと、生徒は悲鳴をあげ、逃げるかと思いきや、興味津々に近づき触ったり、つかんだり。「悪者に見えるヘビも自然の中でこうして生きていかなければならない」という講師先生の言葉が印象的でした。孟子ピオトープには、本校の理科部が定期的に訪れ、トンボやカエル等絶滅危惧種などの生態系調査を行っており、里山で人間が自然にどう関わっていけるかをテーマに研究を続けています。

